

2011 年度事業報告

「分かち合う暮らし」——「世界の人びと」と「次の世代」と

2011 年度は、地球の木設立 20 周年、そして第三次 3 カ年計画の最終年でした。2011 年 3 月に起こった東日本大震災は、私たちの暮らしを一変させる出来事となりましたが、これからの私たちの目指すことが、まさに、この 3 カ年のテーマ「分かち合う暮らし」に違いないこともわかりました。また、この東日本大震災の発生を受け、初めて、国内での緊急救援を実施しました。被災直後の緊急救援物資の支援、そして 5 月からは、地球の木のメンバーが交代で現地を訪れて、現地のグループと協力しながら避難所の人たちへの炊き出しをおこないました。その後も現地との交流を重ね、つながりながら、現地の人たちが主体となって復興を担っていくための支援をおこなっています。

20 周年記念事業は、「分かち合う暮らし」をテーマに「地域づくり」「経済」「エネルギー」（福島第一原発の事故を受け）を取り上げた連続講座と記念パーティーをおこないました。多くの方が企画・実施に関わりました。

ネパール、ラオス、カンボジアでは、海外支援プログラムをすすめました。ネパール、カンボジアでは、日本の支援者と現地の人たちをつなぎ、メッセージのやり取りをおこないました。クラフト品の販売は、現地の生産者と日本の人たちをつなぐ「幸せ分かち合いトレード」として、地球の木のフェアトレード基準策定や販売管理システムの構築を専門家の協力を得ながらすすめました。生活クラブ生協 40 周年事業「40/30（フォーティサーティ）」や展示会販売などの機会を得て、地域のデポーへ出向き、広く地球の木の活動紹介もおこないました。ホームページの刷新もおこない、情報発信をさらに強化しました。第四次 3 カ年計画策定委員会を発足し、次期 3 カ年に向けて、3 カ年計画を策定しました。

■■■■■■■■■■ 海外支援プログラム・里親型支援 ■■■■■■■■■■

●ラオス● 村人の森を守る権利を応援する

プログラム名	ラオス森林保全・農村開発プログラム
支 援 地	サワナケート県（アサポン郡・ピン郡）
現地パートナー	日本国際ボランティアセンター（JVC）・サワナケート県農林局
プログラム費	支援金 400,000 円 調査費 146,255 円 国内活動費 33,470 円 合計 579,725 円

地球の木では、2009 年から、日本国際ボランティアセンター（JVC）がラオスのサワナケート県でおこなっている「ラオス森林保全・農村開発プロジェクト」を支援している。

ラオス政府は、2020 年までに最貧国から脱却することをめざして、大型開発や鉱山開発などを推進している。特に、JVC の活動対象地のピン郡およびアサポン郡があるサワナケート県では、道路条件が整っていることもあり、ベトナム・タイ・中国・インドなどの企業による産業植林のための土地収用問題が多発している。JVC のプロジェクトは、このような状況の中で、村人たちが将来にわたって森を利用する権利を持ち続け、農業の改善を通して安定した食糧を確保ができるようになることを目的としている。

2011 年度、森林保全分野では、土地問題による森の減少から村人を守るため、「参加型土地利用計画（PLUP）」のマニュアルを使い、「村の境界線を確定させるための作業」、および、「森の土地を区分、地図化し、正式に登録する作業」を 2 村で実施した。森の利用区分を明確化することにより、村人を支える天然林を無計画な開発から守ることが可能となる。また、農村開発分野では、2011 年度の「幼苗 1 本植え（SRI）」の実践者が 15 村 62 名と前年度から大幅に増加し、有機肥料研修も参加者の 8 割がとりくむなどの成果を挙げた。米銀行については、全村参加して経験交流を実施し、設置した村でのより円滑な運営につながった。

地球の木では、2011年12月にJVC活動地への訪問を実施し、現場が抱える問題やプロジェクトの進捗状況の把握や、現地で活動するスタッフ等との意見交換をおこなった。現地の状況を、報告書、報告会、会報誌、ホームページなどを通して多くの人たちに伝え、また、引き続き第2フェーズ（2012年4月～2015年3月）に入るJVCプロジェクトを支援していくことを決定した。その他、メコンウォッチなど他団体と連携した活動も積極的に行った。

● **プロジェクト（JVC ラオス）の主な実施内容**

＜森林保全＞

- ① 土地森林委譲（参加型土地利用計画 PLUP）の実施 ② 法律研修
- ③ 自然資源の管理（魚保護エリアの設置支援・焼畑農業・非木材生産物の調査）
- ④ 少数民族の若者による人形劇とドラマの上演 ⑤ アドボカシー活動

＜農村開発＞

- ① 幼苗1本植え稲作研修 ② 有機肥料研修 ③ 米銀行の設置 ④ 複合農業

● **現地訪問・国内活動**

- ・日本の森（里山）についてフィールドワーク（相模原 4/16、鎌倉広町 3/10）
- ・平楽中学校国際学習でラオスワークショップ「ラオスの森・村のくらし」を実施（5/6）
- ・下町パラダイス・ラオスデーにてラオス支援の話（9/3）
- ・JVCラオススタッフ、グレンさんの帰国報告会開催（9/26）
- ・メコンウォッチと連携し、メコン川流域の暮らしの上映会を開催（11/14）
- ・現地調査を実施（12/11～16）
- ・地球の木カフェにて報告会実施（3/20）
- ・絵本作家田島征三氏の「ラオス森の絵本（仮称）」作成に協力

● **カンボジア ● 手に職をつけて未来へ向かう**

プログラム名	クメールシルクプログラム
支 援 地	タケオ州、ブノンペン市内
現地パートナー	VCAO タケオ職業訓練センター他
プログラム費	支援金 158,077 円 現地訪問・ツアー費用 971,719 円 国内活動費 17,320 円 合計 1,147,116 円

カンボジアでは、海外からの投資がさらに進み、新しい工場や建物の建設ラッシュが続いている。物価も上昇の一途をたどり、貧富の差はさらに拡大している。特に農村部の貧困問題は深刻である。タケオの職業訓練センターでも、生徒たちは、貧困から抜け出すために、学校へ通い続けたり、大学へ進学したいと思っているが、難しいことが多い。現在、地球の木が関わり、センターでスカーフの注文生産を続けることで、生徒たちが将来の夢を実現する一助となっている。

2011年度は、新しく連絡係を現地においたことで、現地の状況がよりわかるようになっただけでなく、プログラムを進める上でも大きな力を得た。プログラムは、専門家を同行して、タケオ職業訓練センターのショールームのリニューアル、技術向上、センターのマネジメントについてのアドバイス等をおこなった。1月に実施したスカーフのコンテストは、日本から地球の木会員も参加する交流ツアーとした。生徒たちのやる気をより高めることにつながっている。また、センターのPRが功を奏し、カンボジア主要テレビの番組でセンターのことが紹介された。センター自体も、マネジメントや製品の技術面などで、力をつけてきていて、プログラムを「卒業」する時期も近いということもあり、同じタケオ州の織物が盛んな村で、次の生産者支援を見据えた調査をおこなった。日本では、「織り親募金」を実施し、メッセージや写真の交換をおこないながら、センターの生徒たちと地球の木の支援者をつなぐことができた。

● **プログラム実施内容**

- ・看板、リーフレットの作成
- ・センターショールームのリニューアル
- ・ディスプレイや販売ワークショップの実施
- ・作品コンテストの実施
- ・糸の支援、生徒たちの昼食（米）の支援

● **現地訪問・国内活動**

- ・現地訪問（6/29～7/5、11/3～9）、交流ツアー（1/27～31：作品コンテストに地球の木から8名が参加）
- ・地球の木カフェでの活動紹介（12月：事務所、ギャラリー「夢うさぎ」、3月：事務所、ギャラリー「遊土」）

● **ネパール** ● 教育の現場から幸せにつながる地域づくりを

プログラム名	ネパール「幸せ分かち合いムーブメント」		
支援地	カブレパランチョーク郡 マンガルタール行政村		
現地パートナー	SAGUN（サグン）		
プログラム費	支援金 800,000 円	調査費 299,798 円	国内活動費 29,559 円
	交流訪問費用 362,277 円	合計 1,491,634 円	

未だ海外援助に依存したネパールで、村人が主体となり、より豊かで「幸せ」になれる真の参加型開発のあり方を探求し広めることを長期的目標としている。マンガルタール行政村で、教育や人材育成を通して主体的な村づくりを目指してきた。

今年度は、山間部のパンンチェ地区・ピントリ地区で収入創出プログラムが始まり、現在農業委員会を中心に39名が野菜栽培を行っている。資金を地域ごとに回転させることにより、これまでの参加者は60名となっている。奨学金制度は、卒業生の進学や就職につながっている。今年始まった環境プログラムでは、植林する場所が決まり、環境への意識向上トレーニングを準備している。また、ラジャバス地区の図書室の場所が決定した。

二度の現地訪問およびプログラム・コーディネーターとSAGUN代表の来日により、団体相互の交流と理解が深まった。現地では、日本の震災や経済構造から生じる問題についても共有する機会を持った。「幸せ村民キャンペーン」では、現地から絵入りのハガキが届き、会員との交流も深まった。スタディツアーは参加者が集まらず実施できなかった。

今後の方針についての話し合いを村の協力委員会と持ち、マンガルタールから徐々にフェーズアウトし、近隣の村へ活動をシフトしていくことが話し合われた。

● **プログラム実施内容**

〈教育支援〉

- ・図書室の充実と運用
- ・高校進学、継続のための奨学金の支給（16名）
- ・小学校教師の雇用（3名）
- ・高校生校外研修
- ・作文コンテスト
- ・作文トレーニング
- ・教師トレーニング
- ・ラジャバス地区図書室設置の準備

〈生活改善支援〉

- ・貧困家庭の収入創出プログラム
- ・環境への意識向上プログラム、植林プログラムの準備

〈ムーブメント推進〉

- ・ニュースレター「ロシ・ラハール」発行（第9号～11号）
- ・幸せ分かち合いワークショップ
- ・地区担当連絡員（高校生ファシリテーター）の定期ミーティング

● **現地訪問・国内活動**

- ・幸せ村民キャンペーン：「村だより」を送付(5月) マンガルタールからのハガキ第一便36通が届く(3月)
- ・現地調査(9/20～27)、訪問交流(10/29～11/6)
- ・ネパール料理店「スンガバ」にて報告会開催(1/29)

●カンボジア里親型支援●

支援名	「輝け 地球っ子」
現地パートナー	るしな こみゆにけーしょん やぼねしあ
支援費	支援金 154,000 円

基金の残額を、支援してきた子ども達の将来のために「積立金」として送金した。

■■■■■■■■■■ 緊急支援・国内事業・組織運営 ■■■■■■■■■■

■ 緊急支援

- ・東日本大震災への緊急支援、復興支援を実施した。
- 4月：現地調査、避難所への緊急救援物資の配布（東北広域震災 NGO センターのネットワークとして）
- 5月：現地調査、「国際ボランティアセンター山形（IVY）」による収入創出プログラム「キャッシュワーク」への支援
- 5月末～7月初：IVY 気仙沼と協力して、避難所での炊き出し計 5 回実施（1150 食）
- 9月～3月：現地調査、気仙沼の新しい団体の立ち上げ支援（専門家派遣、事務局研修など）
- その他、仮設住宅に住む被災者への物資の支援（6月：タオルケット・夏物衣料、12月：綿入れ半纏）

■ 相互の自立のための交易事業

- ・イベントやお祭りなどで地球の木の活動を紹介しながら、クラフトグッズの販売をおこなった。
- ・専門家の協力を得て、地球の木フェアトレードの定義づけをおこない、取扱うグッズの基準を設けた。
- ・現地の生産者支援団体などと協力して、オリジナルグッズの開発をおこなった。（2012 年販売予定）
- ・販売管理（卸販売含む）、在庫管理のためのシステム整備をおこなった。
- ・事務所内クラフトコーナーのリニューアルをおこなった。

■ 社会教育事業

<出前講座>

- ・出前講座をおこなった。中学校 4 回（3 校 4 クラス）、高校 2 回（1 校 2 クラス）、地域 4 回（計 10 回）
- ・開発教育協会の全国研究集会に参加して、ファシリテーターのレベルアップをおこなった。
- ・出前講座を紹介する案内状を区役所や市民活動センターなどに送付した。

<地球市民教育>

- ・「あーすフェスタかながわ 2011・2012」に企画段階から参加した。
- ・「南北코리아と日本のともだち展」実行委員会に参加し、絵画展やゲストの招聘などに協力した。
- ・開発教育協会の全国研究集会、教材体験フェスタで「マジカルバナナ v3」のワークショップをおこなった。
- ・地球の木カフェを 4 回開催し、地球の木を紹介する機会とした。（事務所 2 回、ギャラリー 2 回）

<ランチ（地域）活動>

- ・ランチ連絡会を毎月開催し、勉強会や情報交換を活発におこなった。
- ・イベントに参加し、活動をアピールした。
- 環境と平和を考える DAY（平塚 4/23）、YIS フードフェスタ（5/1）、孝道山の夕祭り（8/13～14）、磯子国際交流フェスティバル（9/11）、ひらつか市民活動センター祭り（9/25）、グローバルフェスタ（10/1～2）、かまくら国際交流フェスティバル（11/6）、あーすフェスタかながわ（11/27）
- ・「生活クラブ 40/30」で、7 つのデポーに出向き、地球の木の活動紹介とクイズなどをおこなった。
- ・ランチ連絡会メンバーで、ランチの今後の活動について話し合う機会を設けた。その結果、従来の生活クラブの地域割りを解消し、新しく誰でも参加できる「たうんチーム」とした。

<その他販売>

- ・「国際協力カレンダー」の販売をおこなった。生活クラブ、福祉クラブの協力を得て 1,100 部を完売した。
- ・開発教育教材「マジカルバナナv3」の販売をおこなった。
(2011 年度販売数 本体：85 冊、CD-ROM：62 枚、カード：21 組)

■ 広報活動事業

- ・会報誌を 4 回発行 (1,500 部/1 回 発行)
- ・ホームページチームが研修をうけ、ホームページのリニューアルをおこなった。さらに、随時更新をおこなう体制を整え、情報の発信をおこなっている。

■ ネットワーク

【理事・運営委員などとして運営に参加する団体】

理 事：横浜 NGO 連絡会 (YNN)、かながわ国際交流財団 (KIF)

運営委員：フォーラム・アソシエ、かながわ復興支援ネットワーク

委 員：キララ賞選考委員会

実行委員：「あーすフェスタかながわ 2011・2012」実行委員会、「南北コリアと日本のともだち展」実行委員会

そ の 他：KOREA こどもキャンペーン (呼びかけ団体)、あーすネット幹事会 (幹事)、カンボジア市民フォーラム (世話人)、生活クラブ 40 周年記念事業「生活クラブ 40/30」(神奈川連絡会に参加)

■ その他事業 (20 周年記念事業と「ラオス森の絵本 (仮称)」)

<20 周年記念事業>

- ・設立 20 周年記念の連続講座 (3 回) と記念パーティーを実施した。
 - ①「ネパール笛のコンサート」対談「幸せを分かち合う地域づくり～ネパール・ラダック・日本」(10/15)
講師：SAGUN プログラム・コーディネーター サルバジット・ラマさん
NPO 法人 懐かしい未来 代表理事 鎌田陽司さん
 - ②「いきいきと生きるための『経済』」(12/10)
講師：NPO 法人 アジア太平洋資料センター 事務局長 内田聖子さん
 - ③「飯館村から考える地産地消のエネルギーと原発」(2/4)
講師：NPO 法人 EAS 浦上健司さん
NPO 法人 ひらつかエネルギーカフェ 大嶋朝香さん
- ・地球の木 20 年の活動をまとめた記念誌の発行へ向けての準備をおこなった。(2012 年 6 月発行)

<「ラオス森の絵本 (仮称)」>

- ・総会同時開催イベントで、田島征三さんのおはなし会「ラオスの森を歩く」を開催した。

■ 組織運営

- ・第四次 3 カ年計画を作成した。
- ・プログラムの理解を深めるための研修として、スタッフをラオスの現地調査に派遣した。
- ・ホームページのリニューアルを機に、情報保護方針を作成し、また、情報公開も積極的におこなった。

地球の木会員数 (2012 年 3 月末日)
正 会 員：203 名
サポート会員：693 名 (内団体会員 9)
合 計：896 名

2011 年度入退会者数と主な退会理由
入会者：13 名
退会者：25 名
・活動整理・経済的理由・個人的理由